

[軍人皇帝の時代]

マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスの死後、軍才の乏しい皇帝が続く。
→帝国内各地の軍団が皇帝を擁立して争う時代へと突入。(軍人皇帝の時代)

〈帝国内の現状〉

- ・北方からゲルマン人の侵入が続く。
 - ・東方のパルティアとの抗争が長期化し、財政が窮乏。
- 226年に建国されたササン朝ペルシアもローマの国境を脅かす。

〈軍人皇帝時代の経過〉

- 2世紀末…セプティミス＝セウェルス帝が財政改革に励むもあまり効果は上がらない。
- 3世紀初め…カラカラ帝の治世
帝国領内の全自由民にローマ市民権をあたえる。(アントニヌス勅令)
公衆浴場を建築するなど、公共事業に着手。
- 3世紀半ば…軍人皇帝ウァレリアヌスはササン朝ペルシアに捉えられる。
以後もローマとササン朝の争いは続く。
- 3世紀末…ディオクレティアヌス帝が軍人皇帝時代を終結させる。

〈軍人皇帝時代の変化〉

